

# 柏崎体育 第159号

柏崎市体育協会 広報紙  
平成26年1月17日発行

編集 柏崎市体育協会広報部  
印刷 柏崎インサツ

## 少子化のこれから問題



柏崎市体育協会

副会長 金子錦弥

少子高齢化が言われてから、何年経つ  
たのでしょうか。柏崎市でも小・中学校  
の閉校、柏高の学級減問題がいわれてお  
ります。

スポーツの世界でも学校体育の弱体化  
は、困った事だと思っております。  
その中にあって日本文理高校の、明治  
神宮大会準優勝は快挙であり、来年春の  
選抜大会での活躍が期待されます。柏崎  
においても、卓球、陸上、ハンドボール、  
水球、なぎなた等全国に通用する成績を  
残している事は素晴らしいと思思います。

ただ、指導されている先生方、協会の  
皆様の負担がだんだんと大きくなり、今  
後も部活動において考えさせられる事だ  
と憂慮しておりますが、体育協会でも各  
所属団体の皆様と考えてやかなければな  
りません。

これからの中学校体育、社会体育の将来  
を思うとき、指導体制をもう一度考えて  
ゆかなければなりません。

本協加盟団体を中心に、強い柏崎を築  
いてゆく事が私達の使命であります。

全ての競技が、先ず一勝を目指します  
が、皆様手弁当、無報酬でやつておられ、  
勝利を目指してやられている事に心から敬  
意を表します。

ここで考えられる事は、やるスポーツ

も、水泳であっても良いのですが、私は  
なるべく色々なスポーツを体験し、その  
中の生涯やつてゆけるスポーツを選んで  
欲しいのです。

テレビの画面を見て、どのスポーツ番

組でも気軽にチャンネルを回し、楽しむ  
事が出来る視野の広い、柏崎市民になつ  
ていただきたいと考えます。

最後に、指導にあたつておられる皆様  
に心よりお礼を申し上げると共に、益々  
強い柏崎を築き上げてゆけではあります  
せんか。

それが陸上であっても、野球であって

を選ぶのはあくまで子どもたちであります。

それが陸上であっても、野球であって

## 六十回を迎えた 体育協会主催「北陸バスケットボール大会」

①若いバスケットマンの  
登竜門

柏崎市体育協会

会長 近藤康信

我等が愛し誇る「柏崎体育」は、生命・  
生活基盤である体位・体力の向上を初心  
とし、地域に「庶民体育」の輪を広げる  
とともに、学校体育に根差した競技スポ  
ーツの振興と相乗して、その歴史と伝統  
を築いてきた。

このからの学校体育、社会体育の将来  
を思うとき、指導体制をもう一度考えて  
ゆかなければなりません。

登竜門として喜ばれる大会として、そ  
の役割を果たしてきた。

戦後はいち早く「市民運動会」の復活。

そして、大日本体育会北陸連絡事務局と  
して、地域性を同じくする北陸地方の体  
育活動にリーダーシップを發揮、混乱社  
会の健全復興を目指し、「北陸体育研究  
会」の開催など「北陸」志向の体育事業

入賞は、本大会発展の鍵となる。ミニバ

ーは上位入賞を果たし、大会に花を添えて

スからシニアまで一貫した生涯スポーツ  
体制を整えたバスケットボール界の主流  
事業として市民の支援を得、スポーツに  
よるまちづくりに貢献する大会となるよ  
う更なる隆盛を祈念するものである。

近い、地元のプレーヤーが分散傾向にあ  
り、好成績は残せませんが、「継続こそ  
力なり」をモットーに切磋琢磨して欲し  
いと思います。

そして、高校男女、一般男女の地元チ  
ームが輝くことが、この大会を盛り上げ、  
レベルアップに繋がることを確信して  
います。

第七十回大会の古希に向けて「夢と希望」  
をスローガンに掲げ邁進していきた  
いと思います。

## 北陸大会のあしあと

柏崎バスケットボール協会

会長 大谷正利

専務理事 伊藤 明

柏崎市体育協会

第六十回北陸バスケットボール選手権  
大会の主管団体として、歴代の会長故井  
比孝氏、故関若菜氏、高橋義明氏、飯塚  
悦平氏、森清敬氏、黒田芳明氏の組織力  
のもとで大会運営ができましたことは感  
無量であります。

私自身昭和四十年から四十八年間すべ  
ての面で関わってきました。一番印象に  
残っていることは、故田橋泰氏と柳喜八  
郎氏の声掛けで「地元に一般のチームを作  
り、優勝を目指せ」との言葉が小学生の  
スタートでありました。

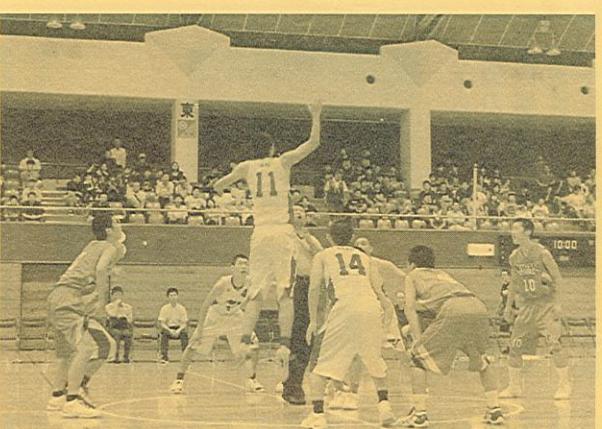
昭和四十六年に新生柏崎クラブ（男  
子）が、協会のオフィシャルチームとし  
て誕生、その年コーチに就任し、週四日  
間の練習日を設定、優勝を目指し、柏崎  
工業高校体育館で練習に励み、高橋保先  
生はじめ諸先輩から指導を賜り、昭和  
五一年の二十五回大会から昭和五十六  
年の二十九回大会まで五連覇を達成でき  
ました。

激励の形は「激励の言葉」通常の場合  
は体協会長・スポーツ振興課長・国体の  
場合は教育長、出場種目団体長等。「激  
励金贈呈」を実施。

その後、時間が許せば選手一人一人の  
闘志満々の決意表明を行い、柏崎市民を  
代表して大きな拍手で送り出す。

本年度は、体協の拠点場所から送り出  
そうと武道館の一階道場（一F）、二階  
控室（全中）、二階会議室（国体）を適  
宜活用して実施した。

柏崎全市民を代替するとしても意味のあ  
ったときました。



## 選手激励会

る会であるにもかかわらず、各所属にお  
かれでは、対応に差がある。

報道関係の問い合わせもあり、ぎりぎ  
りの報告締切日を設定しているが、過ぎ  
ても報告をいただけないところがある。

か

